

「チカラ」をもう一度

本稿を執筆している7月半ば、テレビなどでは新型コロナウイルス感染症の第2波を憂慮するニュースが連日取り上げられ、それを受けて国の「Go To」トラベルキャンペーンへの賛否論が盛りです。この市報が届くころには世の中がどうなっているのか？市でも、売上の落ち込みが甚大な観光業への支援策を実施する方向ですが、新型感染症拡大への懸念から実施内容や時期などについて苦慮しています。

何をやれば正しいのか、市はこれまで判断に迷いながらまさに手探りで新型感染症対策を続けてきました。対策費は総額で10億円を超えます。いつ起こるか分からない水害などの自然災害への備えや蓄えも考慮しつつ、財政を傾けることなく事態に打ち勝たなくてはなりません。国の「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」の市への内示をにらみながらの取り組みです。7月4日から発売した市民対象の「プレミアム付飲食・宿泊券」は、市民の力で

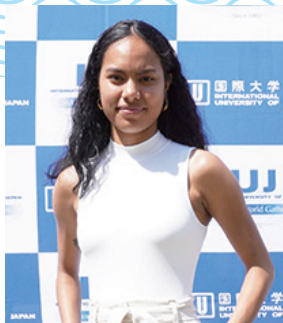
市内経済の回復をめざそうとしたもので、立案当初は、市内に残る色濃い自粛感やこれほどの経済低迷の中で、はたして購入が進むだろうか心配までしていました。しかし、完全に見誤っていました。反響が想定をはるかに超えてしまい、販売方法など猛省しなければならぬ事態となつてしまいました。連日多くの叱責、苦言をいただきました。市長として心からお詫び申し上げます。

一方で、新型感染症により大打撃を受けた市内の業種のみなさんに対し、これほど多くの市民が支援しようとする姿勢やその購買力に感じ入りました。市民の想いと力に正直、驚愕しました。本当にありがたかったです。みなさんの力で経済はこれから緩やかながら回り始めるでしょう。反省すべきは謙虚に改め、しっかりと次の支援策に取り組みたい。観光業などに対し、本格的に市外のみなさんの力を頼るのはまだ先かもしれません。どうか、市民のみなさんの「チカラ」をもう一度お貸しいただきたい。よろしくお願ひします。

国際大学留学生 お国自慢コーナー ~ boast of my country ~

シリーズ
第88回

フィジー共和国 タカヤワ アリシオレラギさん



私の国はこんなところ

フィジーは、約330の島からなる南太平洋の中央に位置する熱帯の島国で、さまざまな海の体験を楽しめます。本島のビティレブ島南部には、サメと一緒に泳ぐことができる島があります。ベンガラグーンでは海洋生物の観察や深海探索がお勧めです。ヤサワ諸島には、風と波の侵食により千年以上かけて形成された神秘的な「サイロウ洞窟」があり、地元の伝説では洞窟の中に「十頭のフィジーの神ウルティニ」がいると信じられています。その他、美しいビーチはリラックスするのに最適な場所です。



フィジー共和国

[公用語] 英語、フィジー語、ヒンドゥスターニー語
[首都] スバ
[面積] 18,274km² (155位)
[人口] 858,038人 (161位)
[GDP(PPP)] 36億ドル (152位)
[通貨] フィジードル (FJD)

※GDPは国内総生産のことで、購買力平価説(PPP)により算出した数値です

南魚沼市に住んで感じたこと

南魚沼は、日本の中でもとても面白い地域です。日本文化をより知るために各地を旅しましたが、南魚沼と同じような場所はどこにもありません。裸押合大祭のような祭りや、他の地域と比較できない素晴らしい料理があります。また、地域の人たちは学生にとっても親切で寛大です。この地になじみのない私たちに、母国の人と同じくらい友好的に接してくれたことは、私の心に深く響きました。南魚沼は、私の日本の「ふるさと」です。